

北里研究所・東洋医学総合研究所活動報告

所 長 花 輪 壽 彦(WHO 伝統医学
研究所協力センター長)
担当理事 土 本 寛 二
WHO 担当理事 山 田 陽 城
名誉所長 大 塚 恭 男

本年度は新棟7年目を迎え、診療・研究・教育・啓発を中心とした事業を展開した。

公益事業としては、これまで同様に WHO 伝統医学研究協力センター活動、研究活動、及び教育活動を行った。

1) 大学院・学部教育

大学院教育：花輪壽彦所長は北里大学大学院医療系研究科「東洋医学」の指導教授（連携大学院客員教授）として「東洋医学」専攻の7名の大学院生の教育・研究指導を行った。山田陽城部門長は北里大学大学院感染制御科学府（学府長：山田陽城）の「和漢薬利用科学」の指導教授として1名の博士課程の大学院生及び8名の修士課程の大学院生の教育・研究指導を行った。研究指導は北里大学北里生命科学研究所（所長：山田陽城）の和漢薬物学研究室で行った。山田教授は北里大学薬学研究科の教授も兼任し、博士課程学生1名の研究指導も行った。大学院感染制御科学府の清原寛章助教授、永井隆之室長補佐（専任講師）、松本司室長補佐（専任講師）、矢部武士主任（専任講師）も同大学院の基本技術講座を始め研究室所属大学院生の教育・研究指導を行った。

学部教育：花輪壽彦所長は引き続き北里大学客員教授として薬学部（東洋医学概論）の講義を清原寛章室長、早崎知幸医師とともに行った。また、花輪所長は医学部の講義を、また山田陽城部門長は同大学教授として薬学部（生薬学）の講義を担当した。また東医研からは10大学に講師を派遣し、東洋医学関連の講義を行っている。

2) 啓蒙活動

北里研究所・東洋医学総合研究所では東洋医学の啓蒙活動の一貫として、10月29日には第5回東洋医学健康フォーラムが開催され、約250人の市民参加のもと、統一テーマ「高齢化と漢方～サクセスフル・エイジング～」により花輪所長の基調講演に続き、東洋医学総合研究所医師によるラウンドディスカッション、漢方鍼灸体験コーナー・資料展示室の見学などが催された。また、その他の活動として各種団体への講師の派遣、新聞

雑誌への原稿提供、マスコミの取材等積極的に活動した。

3) 第27回医学生・研修医のための東洋医学セミナー開催

当研究所は診療業務と研究活動そして東洋医学の教育活動を重要な役割と考えてきた。本セミナーには毎年全国各地から熱心な医学生・研修医が集い、東洋医学の基礎知識の習得と漢方・鍼灸の体験学習を行い、その後の大学生活や臨床に生かしている。

平成17年度は7月25日から5日間の日程で開催され、北は岩手医科大学から南は琉球大学までの全国各地から、東洋医学に関心のある学生36名、研修医及び医師6名の参加があった。講習内容は、漢方・鍼灸の基礎理論から実際の臨床の講義まで、大学では触れることのない医史学の講義や最先端の研究の紹介まで、広範囲にわたるものであった。講師陣は、花輪所長を筆頭とする当研究所のスタッフに加え、今回も当セミナーの趣旨にご賛同頂いた、先生方に特別講義や実地見学指導という形でご参加頂いた。4日目の午後には東京都薬用植物園園長の森本陽治先生による東京都薬用植物園の見学と特別講演「薬用植物と植物系ドラッグ」が行われた。最終日には当研究所顧問の大澤仲昭先生に「漢方をどう学ぶか」、千葉大学和漢診療学教授の寺澤捷年先生に「和漢診療学がめざすもの」と題し、それぞれのご専門の素晴らしいご講義を賜ることができた。受講生のみならず、聴講した所員にも大変興味深いものであった。また、受講生の間で最も関心の深い実習は、漢方診療部・鍼灸診療部・薬剤部の各部門で夕方遅くまで熱心に行われ、最終日の質疑応答および懇親会では受講生からの活発な討論がなされた。

大学医学部では漢方医学の講義が必須科目となり、現代医療における漢方治療の必要性もさらに大きくなるものと思われる。医学生の立場を考えると、標準的な漢方医学とは何かという疑問を感じているのが現状である。日本の伝統医学である漢方医学を継承してきた当研究所が北里東医研流のスタイルを明確に提示していく事が使命と考えている。さらに今後も、斬新な企画を盛り込み、「伝統医学の継承と発展のために」という基本理念の実現に努力していきたい。

4) WHO 関係及び国際交流

6月27日より29日までの3日間 WHO 西太平

洋事務局主催の非公式会議として東医研 WHO 伝統医学研究協力センターがその開催を委任され、日本、韓国および中国よりの代表の出席のもと、第2回伝統医学に関する国際的標準用語の策定の専門家会議 (2nd Informal Consultation on Development of International Standard Terminologies on Traditional Medicine) を白金キャンパスで開催した。本会議には東医研からは小曾戸洋医学研究部長がテンポラリーアドバイザーとして、また、花輪壽彦所長、山田陽城センター長並びに石野尚吾診療部門長がオブザーバーとして出席した。

WHO 伝統医学研究協力センターの人事として、10月1日付けでセンター長を花輪壽彦所長に変更し、山田陽城研究部門長は同センターの担当理事となった。また、同研究協力センターの事務組織の強化のため組織変更を行い、WHO 西太平洋事務局や WHO 本部からの要請に、機能的に対応できる体制に変更した。

国外からの留学研究員(生)としては、6月15日から7月20日まで米国 North Carolina 大学生物系学部の Cara A. Perinetti 女史が、7月7日から9月4日までタイ国立 Chulalongkorn 大学薬学部の Mali Wirotesanthong 講師が、また、10月1日から11月30日までタイ Srinakharinwirot 大学薬学部の Kamkaen Narisa 講師が滞在し、漢方薬の基礎研究に関する研修を行った。また、11月28日から12月16日までマレーシア医学研究所植物薬研究センターの Ami Fazlin Syed Mohamed 博士が滞在し、現代医療における漢方医薬学に関する研修を行った。

国際交流については、花輪壽彦所長が、10月9日から12日まで京都で開催された 12th Congress of The International Headache Society において「頭痛への漢方薬の適用の実際」に関する教育セミナーを行った。山田陽城研究部門長が、2月26日から28日までシンガポールで開催された International Congress on Complementary and Alternative Medicine において「免疫系、神経系および内分泌系に対する漢方方剤の薬効と作用成分」に関する招待講演を、3月13日から17日までサンディエゴで開催された 229th American Chemical Society Meeting で「薬用植物由来の薬理活性ペクチンの薬効発現メカニズム」に関する招待講演、また、12月15日から20日にハワイで開催された 2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2005) において「薬用植物からのペクチンの腸管免疫賦活化活性と構造」並びに「中枢・免疫系への漢方方剤の作用メカニズムと作用成分」に関する招待講演を行った。柳澤紘客員部長が11月4日から5日まで

香港で開催された 2005 TWGHs Eddie Wang International Symposium on Integrated Chinese and Western Medicine において「変形性膝関節症に対する鍼灸治療」に関する招待講演を行った。また、金成俊薬剤部長が10月20日から23日まで韓国で開催された The 13th International Congress of Oriental Medicine において「漢方外来における患者の分析と治療中断原因の解析」に関する招待講演を行った。

5) 特殊外来開設

現在、漢方診療部の特殊外来として、レディースクリニック(内科系高橋裕子医師、婦人科系関口敦子医師)、キッズクリニック(早崎理香医師)、過敏性腸症候群外来(伊藤剛副部長)、炎症性腸疾患外来(及川哲郎副部長)、咳・呼吸器外来(高橋裕子医師)、膝・腰・関節外来(八代忍医師)、頭痛外来(五野由佳理医師)、糖尿病・甲状腺外来(有島武志医師)、自律神経失調症・循環器外来(小田口浩医師)、婦人科外来(関口敦子医師)が開設されている。これら特殊外来により東洋医学全般の診療に加え、各医師の現代医学的な専門性をも生かした診療を受けることができるようになっている。今後は患者様の要望に答えるべく、これら特殊外来診療の更なる充実を図って行く予定である。

その他、平成17年度は多彩な患者ニーズに応えるべく、夜間しか受診できない患者様に対し、9月より夜間診療を行う「トワイライト外来」を週1回金曜日に開設し、診療サービスの向上を図った。

6) 学会開催

山田陽城研究部門長が大会長、花輪壽彦所長が実行委員長となり、8月20、21日の両日、第22回和漢薬学会大会を品川区の総合区民会館「きゅりあん」にて開催した。本学会の運営には当研究所と北里大学・北里生命科学研究所のスタッフが実行委員となり、大会運営に当たった。

大会テーマ「基礎と臨床の融合 -全身修復へのサイエンス-」の下、国内外の最先端の和漢薬研究者をお招きし、2つの特別講演や4つのシンポジウム等を催した。大会長講演では山田陽城研究部門長が「和漢薬研究 -基礎研究者の役割-」の講演を、市民公開講座では村主明彦漢方診療部長の司会のもと「女性の病氣と漢方」をテーマに、花輪壽彦所長が「漢方診療の実際」の講演を行った。大会には約700名以上の参加があり、市民公開講座の参加者を加えると約900名の参加があった。130題の一般演題(口演・ポスター)があり、活発な意見交換が行われ、盛況の内に終了した。

・診療部門

部門長	石野尚吾
漢方診療部	
所長	花輪壽彦
部長	村主明彦
客員部長	柳澤紘
副部長	伊藤剛
副部長	及川哲郎
医長	鈴木邦彦
医長	早崎知幸
医員	高橋裕子
特別研修医	五野由佳理
特別研修医	関口敦子
特別研修医	有島武志
特別研修医	齋藤絵美 (4/1～)
客員医師	佐藤弘 (3/31 まで)
客員医師	頼建守
客員医師	早崎理香
客員医師	櫻井正智
客員医師	米田吉位 (3/31 まで)
客員医師	八代忍
客員医師	小田口浩

漢方診療の活動概要

北里東医研の診療部門及び薬剤部門は、より親しみやすい漢方鍼灸治療センターの呼称を新たに冠し、さらなる発展を目指している。

当研究所の漢方外来では、湯液を中心にした診療を行っている。当然のことながら、漢方独特の診察法である四診に基づいた随証治療であり、患者個人個人の病態に合わせたキメの細かい、テーラーメイド診療を実践している。

近年は従前にも増して、各専門領域の知識を要する難病の患者が多くなってきた。このため、3年ほど前より各種漢方専門外来を設置し、その後も拡充を図っている。現在、漢方レディースクリニック(婦人科系/内科系)、キッズクリニック、婦人科外来、咳・呼吸器外来、炎症性腸疾患外来、過敏性腸症候群外来、膝・関節・疼痛外来、頭痛外来、自律神経失調症・循環器外来、糖尿病・甲状腺外来を設置している。西洋医学的見地からのアドバイスと幅広く身体全体を捉える漢方の、それぞれの良さを兼ね備えた理想的な治療を受けることが出来ると好評である。

また受診時間に関しても、より幅広いニーズに応えるため「トワイライト外来」を設置した。金曜日のみではあるが夜7時まで診療を行い、従来受診できなかった患者への対応を図っている。

漢方診療専門機関である北里・東医研漢方診療部門には伝統的随証治療の修得と漢方医学の科学的解明を目的に全国、時に世界各地から多くの医師が集まる。受け入れにはいくつかのルートがあるのでここに紹介する。

第一は当研究所独自の漢方特別研修医師制度である。所属する医局の教授や病院長などの推薦のもと、2年の年限で漢方医学の実際を会得することを目標にしている。1期2～3名を定員とする。漢方については初心者であっても、それぞれの専門分野では既に専門医として第一線で活躍している中堅医師が大半であり、各専門分野に関する最新の知見については、漢方常勤医が逆の立場で教わることも多く、互いに鼓舞されるところ大である。第二として、花輪壽彦所長が教授を兼任する北里大学大学院医療系研究科東洋医学の院生が、漢方診療の研修と漢方の基礎、臨床研究に携わっている。従来の個別性を大切にした漢方に、EBMの新しい切り口を加えるべく日夜奮闘中である。第三は北里大学医学部学生の漢方外来見学で、同医学部公衆衛生の実習の一環として受け入れを要請されているものである。第四は少数であるが、個人的な依頼による短期見学(ただし運営会議において了承される必要あり)である。

月曜日午前は所長の指導外来枠となっており、先輩医師の指導のもと、特別研修医師あるいは大学院生が輪番で予診をとり、漢方医学的仮診断・処方(鑑別処方を付記)を決定した後、所長の本外来に臨む。漢方診療のプロセスを体得できる数少ない機会である。この他当研究所ではオーベン・ネーベン制を導入しており、オーベン外来への陪席の他、マンツーマンでの古典の読み合わせなどが行われている。

外来以外にも漢方を学ぶ機会が用意されている。新患検討会、医局薬局勉強会、フォローアップ検討会、古典勉強会、抄読会・リサーチカンファレンスなどである。このうち、新患検討会は、会に先立つ1週間の全新患を各担当医がプレゼンテーションする会である。この会で使用するデータベース作成の作業が特別研修医師に課せられる。新患ひとり一人の舌証・脈証・腹証・方剤…を打ち込んで行くきわめて煩瑣な作業である。しかし、陪席できなかった漢方医の処方決定のプロセスをつぶさに検証することにも繋がり、目的意識をもって取り組めば、きわめて有益な漢方修得の機会となる。医局薬局勉強会は、生薬と漢方処方の合

同勉強会。物心両面で医局と薬局の距離が近いのも東医研の良さのひとつである。フォローアップ検討会は、外来診療で経験した著効例や難治例など、注目すべき症例につき検討する会。古典勉強会では、小曾戸医史学研究部長による傷寒論など古典の概説が行われ、古典に一段深く接し理解する、非常に貴重な機会となっている。リサーチカンファレンスは、研究面での検討や結果報告を行う機会として、臨床研究部と合同で行っている。

医局には専用の百味筆筒が用意されていて、自身で自由に漢方薬を調合し服用することができる。研修医には研修期間中に大方の処方については、必ず煎じてその味・におい・服薬のしやすさ等を体得するよう要求される。個々の漢方薬の特徴をつかむと同時に、患者の立場にたった医療を感得する貴重な体験である。

特別研修医師・常勤医も含め、医局員の大半は臨床研究部研究員および隣接する北里研究所病院総合内科医師を兼任している。必要があれば動物も含めた各種実験・研究も行える。また各種血液・生化学検査、画像診断、光学医療診断を行なうことも可能で、診療の自由度という点では申し分のない環境である。東医研から北里研究所病院には毎週上部消化管検査および下部消化管検査に人員を提供している。さらに、同病院の内科当直業務も分担し、万全な協力体制がとられている。

新棟に移転して5年となる節目の年、現状に甘んじることなく、気持ちを新たにさらなる診療・教育・研究の充実を図っていくことが、日本の本格的漢方診療研究機関のパイオニアを自認する北里・東医研の使命である。

著 書

- 1) H. Yamada and I. Saiki ; editing : T. Hanawa: Therapeutic Indications of Juzen-taiho-to in Modern Therapy, Juzen-taiho-to (Shi-Quan-Da-Bu-Tang) Scientific Evaluation and Clinical Applications, 57-63, Taylor and Francis (2005)
- 2) 花輪壽彦, 監修: 決定版漢方, 新星出版 (2005)
- 3) 天野恵子, 花輪壽彦, 編著; 漢方は女性の健康をたすける, 岩波書店 (2005)
- 4) 大坪眞紀: 更年期・不定愁訴, 漢方は女性の健康をたすける, 岩波書店, 108-120 (2005)

原 著

- 1) T. Oikawa, G. Ito, H. Koyama, and T. Hanawa: Prokinetic effect of a Kampo medicine, Hangekoboku-to (Banxia-houpo-tang), on patients with functional dyspepsia Phytomedicine, 12 (10):730-734 (2005)

- 2) T. Arishima, N. Yamamoto, M. Ito, T. Takeuchi, T. Hiraiwa, J. Terasaki, G. Ito, T. Hanawa, A. Imagawa and T. Hanafusa : Efficacy of hochuekkito for postprandial hypotension complicated by diabetes, J. Trad. Med., 22(6): 329-331 (2005)
- 3) Silke Cameron-Schaefer, K. Kondo, A. Ishige, S. Tsuyama, K. Uchida, T. Hanawa, M. Suematsu and K. Watanabe : Maintaining the Redox-Balance Intact : Gosha-Jinki-Gan but Not Insuline Activates Retinal Soluble Guanylate Cyclase in Diabetic Rats, Ophthalmic Research, 38(2):95-104 (2005)
- 4) 長谷川愛子, 伊藤 剛, 石津みゆ子, 花輪壽彦: 食事摂取と体位が健常者の核心温ならびに血圧に及ぼす影響—炭水化物摂取と仰臥位・長坐位における検討—, 自律神経, 42(3) : 257-264 (2005)

総 説

- 1) 花輪壽彦: 「気剤の効き方」について, 日本東洋医学雑誌, 56(3) : 426-433 (2005)
- 2) 花輪壽彦: 日本漢方の伝統, 日本医史学雑誌, 51(2) : 150-159 (2005)
- 3) 花輪壽彦: 現代医療における漢方の位置, 科学, 75(7) : 824-827 (2005)
- 4) 花輪壽彦: コア・カリキュラム時代の漢方 第4講 漢方診療のすすめ方—漢方の四診について, 日本醫事新報, 4212: 17-22, 33-36 (2005)
- 5) 花輪壽彦: コア・カリキュラム時代の漢方 第5講 生薬と方剤の知識, 日本醫事新報, 4217 : 50-54 (2005)
- 6) 花輪壽彦: コア・カリキュラム時代の漢方 第6講 『傷寒論』について, 日本醫事新報, 4221 : 44-49 (2005)
- 7) 花輪壽彦: コア・カリキュラム時代の漢方 第7講 『金匱要略』について, 日本醫事新報, 4225 : 18-22 (2005)
- 8) 花輪壽彦: コア・カリキュラム時代の漢方 第8講 症候の捉え方, 日本醫事新報, 4230 : 23-27 (2005)
- 9) 花輪壽彦: コア・カリキュラム時代の漢方 第9講 生薬・漢方薬の諸注意, 日本醫事新報, 4234 : 17-21 (2005)
- 10) 花輪壽彦: コア・カリキュラム時代の漢方 第10講 漢方薬の薬理作用についての最近の知見, 日本醫事新報, 4238 : 15-19 (2005)
- 11) 花輪壽彦: コア・カリキュラム時代の漢方 第11講 漢方医学とEBM, 日本醫事新報, 4243 : 18-22 (2005)

- 12) 花輪壽彦:コア・カリキュラム時代の漢方 第12講 漢方医学とNBM, 日本醫事新報, 4247: 60-63 (2005)
- 13) 花輪壽彦:コア・カリキュラム時代の漢方 第13講 鍼灸医学概説, 日本醫事新報, 4251: 21-27 (2005)
- 14) 花輪壽彦:コア・カリキュラム時代の漢方 第14講 漢方と相補・代替医療, 日本醫事新報, 4256: 21-26 (2005)
- 15) 花輪壽彦:コア・カリキュラム時代の漢方 第15講 漢方医学の展望, 日本醫事新報, 4260: 17-22 (2005)

症例報告

- 1) 村主明彦, 鈴木邦彦, 伊藤剛, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(22)洗肝明目湯が有効だった原田病の一例, 漢方の臨床, 52(6): 880-886 (2005)
- 2) 及川哲郎, 早崎知幸, 頼建守, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(25)シェーグレン症候群の3症例, 漢方の臨床, 52(10): 1562-1566 (2005)
- 3) 鈴木邦彦, 伊藤剛, 村主明彦, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(26)四逆加人参湯が有効であった2症例, 漢方の臨床, 52(11): 1880-1884 (2005)
- 4) 高橋裕子, 五野由佳理, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(21)蕁麻疹の5症例, 漢方の臨床, 52(4): 552-557 (2005)
- 5) 高橋裕子, 関口敦子, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(27)奔豚湯(肘後備急方)の3症例, 漢方の臨床, 52(12): 2157-2161 (2005)
- 6) 五野由佳理, 有島武志, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(24)八味丸料の興味ある有効症例, 漢方の臨床, 52(9): 1318-1322 (2005)
- 7) 五野由佳理, 花輪壽彦: 過去10年間の当研究所での一次性頭痛における漢方薬の有効性, 漢方の臨床, 52(12): 2020-2026 (2005)
- 8) 関口敦子, 米田吉位, 櫻井正智, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(18)十六味流気飲の使用経験, 漢方の臨床 52(1): 128-133 (2005)
- 9) 関口敦子, 櫻井正智, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(23)補気健中湯の使用経験, 漢方の臨床, 52(7): 1041-1046 (2005)
- 10) 有島武志, 八代忍, 米田吉位, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(19): 桂枝甘草竜骨牡蠣湯が有効であった3症例, 漢方の臨床 52(2) 243-248 (2005)
- 11) 頼建守, 早崎知幸, 花輪壽彦: 北里東医研診療録から(20)竜胆瀉肝湯の使用経験, 漢方の

臨床 52(3): 421-430 (2005)

プロシーディング

- 1) 及川哲郎: 消化管機能に及ぼす半夏厚朴湯の効果—FD患者を中心とした検討—, 消化器病学の進歩 2005 モノグラフ, 消化器病学のニューフロンティア編, 87-90 (2005)

研究報告書

- 1) 花輪壽彦, 若杉安希乃, 小田口浩, 五野由佳理, 坂井文彦: 漢方の役割, 厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業 慢性頭痛の診療ガイドライン作成に関する研究 (H15-こころ-014) 平成16年度統括・分担研究報告書 主任研究者 坂井文彦 (2005.3)

学会・研究会発表

- 1) Y. Gono, T. Hanawa and F. Sakai: Effectiveness of Kampo medicines for primary headaches ~ Ten years experience at the Oriental Medicine Research Center, Kitasato Institute ~, 12th IHC, Kyoto (Japan) 2005.10.9 ~ 12
- 2) 丸山将浩, 来須正幸, 小林誠一, 藤原博典, 関隆志, 岩崎鋼, 荒井啓行, 佐々木英忠, 花輪壽彦: Donepezil と加味温胆湯併用療法によるアルツハイマー病に対する治療効果の比較検討, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005.5.20~22
- 3) 村主明彦, 石野尚吾, 花輪壽彦: 霊芝, 板藍根加味漢方処方および各種代替療法により退縮したと思われる肝臓癌の一例, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005.5.20~22
- 4) 伊藤剛, 若杉安希乃, 花輪壽彦: 温熱生理学的にみた裏寒と手足厥寒の病態, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005.5.20~22
- 5) 及川哲郎, 伊藤剛, 花輪壽彦: FD患者に対する半夏厚朴湯の効果~腸管ガス量に関する検討~, 第56回日本東洋医学会総会, 富山, 2005.5.20~22
- 6) 鈴木邦彦, 花輪壽彦: 四逆加人参湯が有効であった特発性血小板減少性紫斑病の1例, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005.5.20~22
- 7) 鈴木邦彦, 花輪壽彦: 括蕁薤白半夏湯が有効であった冠攣縮狭心症の一例, 第15回漢方治療研究会, 京都, 2005.9.25
- 8) 早崎知幸, 櫻井正智, 村主明彦, 花輪壽彦: 温胆湯有効症例の検討, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005.5.20~22
- 9) 早崎知幸, 松本司, 遠藤真理, 山田陽城, 花

輪壽彦：食物アレルギーモデルマウスを使った桂枝加芍薬湯の有効性の検討，第 22 回和漢医薬学会，東京，2005. 8. 20～21

- 10) 関口敦子，村主明彦，石野尚吾，花輪壽彦：当研究所における突発性難聴の検討，第 56 回日本東洋医学会学術集会，富山，2005. 5. 20～22
- 11) 有島武志，及川哲郎，伊藤剛，村主明彦，花輪壽彦：七物降下湯が奏効した 3 症例，第 56 回日本東洋医学会学術総会，富山，2005. 5. 20～22
- 12) 有島武志，山本直宗，伊藤充，伊藤剛，花輪壽彦，今川彰久，花房俊昭：食事性低血圧に対する補中益気湯投与の試み，第 22 回和漢医薬学会，東京，2005. 8. 20～21
- 13) 山本直宗，佐々木恵雲，合田公志，永田浩志，寺前純吾，田中英高，有島武志，伊藤充，今川彰久，花房俊昭：症候性食事性低血圧と起立性低血圧の併発を治療しえた糖尿病の一例，第 58 回日本自律神経学会，千葉，2005. 10. 27～28
- 14) 八代忍，石野尚吾，柳澤紘，若杉安希乃，石原武，花輪壽彦：高齢者の転倒予防に対する鍼灸治療の効果について，第 56 回日本東洋医学会学術総会，富山，2005. 5. 20～22
- 15) 米田吉位，花輪壽彦：血液透析中にエリスロポエチン抵抗性貧血を疑われた 2 症例に対する加味帰脾湯の使用経験，第 56 回日本東洋医学会学術総会，富山，2005. 5. 20～22
- 16) 米田吉位，竹内ゆかり，伊東秀憲，花輪壽彦，漢方薬での脈波伝搬速度(PWV)を用いた検討(第 2 報)，第 22 回和漢医薬学会，東京，2005. 8. 20～21
- 17) 玄世鋒，米田吉位，滝口洋一郎，橋口一弘，竹内ゆかり，若杉亜希乃，及川哲郎，金成俊，花輪壽彦：めまいに対する沢瀉湯の臨床試験報告 1，第 56 回日本東洋医学会学術総会，富山，2005. 5. 20～22

シンポジウム等

- 1) H. Yanagisawa, S. Yashiro, S. Ishino and T. Hanawa: Acupuncture for osteoarthritis of the knee, 2005 TWGHs Eddie Wang International Symposium on Integrated Chinese and Western Medicine, (Hong Kong) 2005.11.4～5
- 2) 花輪壽彦：東洋医学と自律神経，第 58 回日本自律神経学会総会シンポジウム，千葉，2005. 10. 28
- 3) 花輪壽彦：呉茱萸湯証－レスポンダー抽出トリアルの経験から－，ワークショップ 3「失

敗例から学ぶ証の意味」，第 56 回日本東洋医学会学術総会，富山，2005. 5. 22

- 4) 及川哲郎，伊藤剛，花輪壽彦：消化管機能に及ぼす半夏厚朴湯の効果－FD 患者を中心とした検討－，第 91 回日本消化器病学会総会，シンポジウム，東京，2005. 4. 16
- 5) 石野尚吾，村主明彦，伊藤剛，早崎知幸，高橋裕子，八代忍：高齢化と漢方，第 5 回東洋医学健康フォーラム，ラウンドテーブルディスカッション，東京，2005. 10. 29

講演

- 1) T. Hanawa: Practical guidance to Kampo medicine for headache, 12th congress of the international headache society, Lunch seminar 3, Kyoto, 2005.10.10
- 2) 花輪壽彦:Kampo medicine- it's present role and future perspectives, 第 78 回日本薬理学会年会，横浜，2005. 3. 23
- 3) 花輪壽彦：抗老化と漢方，市民公開講座「暮らしの中の漢方」，第 56 回日本東洋医学会学術総会，富山，2005. 5. 22
- 4) 花輪壽彦：日本漢方の伝統，第 106 回日本医史学会総会，東京，2005. 6. 26
- 5) 花輪壽彦：東洋医学の現状と展望，第 26 回日本小児東洋医学会学術集会，東京，2005. 4. 23
- 6) 花輪壽彦：慢性頭痛の診療ガイドライン作成に関する研究 治療ガイドライン作成のために 漢方の役割，第 18 回日本疼痛漢方研究会，東京，2005. 7. 16
- 7) 花輪壽彦：慢性頭痛に対する漢方の役割，平成 16 年度厚生労働省科学研究費補助金こころの健康科学研究事業 慢性頭痛の診療ガイドライン作成に関する研究報告会，東京，2005. 3. 5
- 8) 花輪壽彦：漢方診療の基礎と応用，第 296 回浜松消化器病研究会，静岡，2005. 3. 3
- 9) 花輪壽彦：北里東医研診療録から，東亜医学協会漢方学術奨励賞受賞講演，第 15 回漢方治療研究会，京都，2005. 9. 25
- 10) 花輪壽彦：黄連・大黄・石膏類方，平成 16 年度漢方医学講座，東京，2005. 3. 13
- 11) 花輪壽彦：東洋からみた健康，浜松医科大学公開講座，静岡，2005. 6. 18
- 12) 花輪壽彦：漢方は女性の健康をたすける，大田原赤十字病院市民講座，栃木，2005. 7. 2
- 13) 花輪壽彦：漢方エキス製剤のやさしい使い方，大阪，2005. 5. 14
- 14) 花輪壽彦：現代医療における漢方の役割，日本東洋医学会卒前セミナー，東京，2005. 8. 22

- 15) 花輪壽彦：漢方医学の基礎と応用，第1回北里大学漢方セミナー，神奈川，2005.11.30
- 16) 花輪壽彦：漢方のまとめ，平成16年度漢方薬・生薬研修会，東京，2005.2.20
- 17) 花輪壽彦：漢方概論，平成17年度漢方薬・生薬研修会，東京，2005.4.17
- 18) 花輪壽彦：漢方各論－免疫・アレルギー－，平成17年度漢方薬・生薬研修会，東京，2005.4.17
- 19) 花輪壽彦：漢方の基礎知識－漢方薬，民間薬，サプリメント－，第5回神奈川県下地域・職域看護職研修会，神奈川，2005.9.16
- 20) 花輪壽彦：漢方による冷え症の診療，“冷え性の克服”－海苔の可能性を探る－学術講演会，北里研究所東洋医学総合研究所，(株)白子，東京，2005.11.17
- 21) 花輪壽彦：漢方診療の実際，女性の病氣と漢方，第22回和漢医薬学会市民公開講座，東京，2005.8.21
- 22) 花輪壽彦：慢性頭痛と漢方，平成16年度厚生労働省科学研究費補助金こころの健康科学研究事業 慢性頭痛の診療ガイドライン作成に関する研究市民講座「女性の頭痛解消法」－西洋医学と東洋医学からのアプローチ，東京，2005.3.5
- 23) 花輪壽彦：漢方診療の実際，第1回御茶ノ水漢方医学フォーラム，東京医科歯科大学医学部附属病院，2005.7.14
- 24) 花輪壽彦：高齢化と漢方－サクセスフル・エイジング－，第5回東洋医学健康フォーラム，東京，2005.10.29
- 25) 石野尚吾：耳鼻咽喉科疾患，症候と漢方薬治療，昭和耳鼻咽喉科医学学術講演会，東京，2005.6.11
- 26) 石野尚吾：生活習慣病と漢方，兵庫県臨床漢方医学会，兵庫，2005.11.6
- 27) 伊藤 剛：IBSの本態を紐解く，これからIBSをどう治療していくか？（基調講演）漢方医学の観点から，第4回腸管の機能と免疫研究会学術集会，東京，2005.1.22
- 28) 伊藤 剛，萩野浩志，花輪壽彦：のりペプチドの冷え症に対する臨床効果，冷え性の克服－海苔の可能性を探る－，学術講演会，東京，2005.11.17
- 29) 及川哲郎：「炎症性腸疾患の漢方治療」，第11回IBD&B研究会，東京，2005.6.17
- 30) 及川哲郎：「東洋医学の知恵をくらしに活かす」，えびす健康大学，東京，2005.9.12
- 31) 鈴木邦彦：こんなに漢方が効くなんで，第43回全日本学生漢方研究会連盟総会，東京，2005.11.20
- 32) 早崎知幸：育てよう！子どもの健康な心と身体，川崎市教育委員会主催，心と身体を育てる食事の会，神奈川，2005.3.27
- 33) 早崎知幸：癌と漢方治療えびす大学，東京，2005.6.28
- 34) 早崎知幸：漢方医早崎知幸先生に聞く体に良い食事のお話，子育てサロン，スペシャル講座，埼玉，2005.10.8
- 35) 五野由佳理：頭痛の漢方治療，頭痛フォーラム「頭痛とうまくつきあうには」（相模原頭痛市民公開講座）相模原医師会，相模原薬剤師会，ファイザー（株），相模原，2005.10.29
- 36) 有島武志：漢方理論（気・血・水），第2回大阪漢方塾，高槻，2005.8.16～19
- 37) 有島武志，水嶋丈雄：平成17年度大学勤務医の為の漢方医学教育セミナー，漢方医学教育セミナー（株式会社ツムラ主催），東京，2005.9.17～18

講 義

- 1) 花輪壽彦：（東洋医学講義）東洋医学入門，北里大学薬学部3・4年次，東京，2005.4.13
- 2) 花輪壽彦：東洋医学概説，北里大学大学院医療系研究科臨床医科学群（内科系）学群講義，神奈川，2005.11.8
- 3) 花輪壽彦：現代医療における和漢薬の役割，平成17年度大学院感染制御科学府修士課程和漢薬利用科学I，東京，2005.6.2
- 4) 花輪壽彦：腎・尿路の東洋医学，北里大学医学部4学年後期特別講義，神奈川，2005.10.25
- 5) 花輪壽彦：（東洋医学講義）漢方総論，山梨県立大学看護学部，2005.4.21
- 6) 花輪壽彦：（東洋医学講義）漢方診療の実際，山梨県立大学看護学部，2005.4.28
- 7) 伊藤 剛：（東洋医学講義）漢方医学総論・各論，浜松医科大学，2005.9.15
- 8) 伊藤 剛：（東洋医学講義）鍼灸医学総論・各論，浜松医科大学，2005.11.10
- 9) 伊藤 剛：（医学原論）特別講義，北里大学医学部，2005.4.11
- 10) 伊藤 剛：（医療論講義）東洋医学と西洋医学，静岡県立大学看護学部，2005.5.31
- 11) 伊藤 剛：（東洋医学講義）鍼灸総論，山梨県立大学看護学部，2005.4.25
- 12) 伊藤 剛：（東洋医学講義）東洋医学を看護に生かす，山梨県立大学看護学部，2005.5.16
- 13) 早崎知幸：（東洋医学概論）漢方医学の基礎知識，北里大学薬学部，2005.4.20
- 14) 早崎知幸：（東洋医学概論）漢方診療のすすめ

- 方, 北里大学薬学部、2005. 4. 27
- 15) 早崎知幸：(東洋医学概論) 漢方エキス製剤のやさしい使い方, 北里大学薬学部、2005. 5. 11
 - 16) 早崎知幸：(東洋医学概論) 各科疾患の漢方治療(呼吸器・消火器疾患など), 北里大学薬学部、2005. 5. 18
 - 17) 早崎知幸：(東洋医学概論) 各科疾患の漢方治療(皮膚疾患・悪性疾患), 北里大学薬学部、2005. 5. 25

その他

- 1) 花輪壽彦：漢方用語の基礎知識 水の異常, 漢方調剤研究, 13(5) : 22 (2005)
- 2) 花輪壽彦：漢方用語の基礎知識 気の異常, 漢方調剤研究 13(1) : 9 (2005)
- 3) 花輪壽彦：The Yin and Yang of medicine, Skyward February P24-29 (2005)
- 4) 花輪壽彦：東洋医学のススメ, 腎と漢方, 禅の友, 平成 17 年 2 月号, 曹洞宗総務庁
- 5) 花輪壽彦：漢方 Q & A ⑨ 中高年のかぜには葛根湯より香蘇散, ALPHA CLUB271, P7 (2005)
- 6) 花輪壽彦：漢方 Q & A 10 潰瘍性大腸炎に有効な漢方薬, ALPHA CLUB272, P10 (2005)
- 7) 花輪壽彦：漢方 Q & A 11 抗がん剤副作用の食欲不振など軽減, ALPHA CLUB273, P13 (2005)
- 8) 花輪壽彦：漢方 Q & A 12 更年期障害の症状まず加味逍遙散を, ALPHA CLUB274, P7 (2005)
- 9) 花輪壽彦：漢方 Q & A 13 疼痛緩和する薬, 疝気には効き目, ALPHA CLUB275, P6 (2005)
- 10) 花輪壽彦：漢方 Q & A 14 夏のひどい汗かきストレスの関与も, ALPHA CLUB276, P3 (2005)
- 11) 花輪壽彦：漢方 Q & A 15 冷房でひく夏かぜエキス顆粒で退散, ALPHA CLUB277, P3 (2005)
- 12) 花輪壽彦：漢方 Q & A 16 初秋の夏バテ対策は過剰な水分摂取防ぐ, ALPHA CLUB278, P4 (2005)
- 13) 花輪壽彦：漢方 Q & A 17 症状の軽い胆石 柴胡剤など服用, ALPHA CLUB279, P8 (2005)
- 14) 花輪壽彦：漢方 Q & A 18 「こむらがえり」は芍薬甘草湯を服用, ALPHA CLUB280, P12 (2005)
- 15) 花輪壽彦：漢方 Q & A 19 老人性のかゆみ 当帰飲子が有効, ALPHA CLUB281, P15 (2005)
- 16) 花輪壽彦：漢方 Q & A 20 胃腸の強弱により風邪薬処方異なる, ALPHA CLUB282, P5 (2005)
- 17) 花輪壽彦：ふれあいラジオパーティ『漢方で元気!今の時代の漢方活用術〜』, NHK ラジオ第一放送, 2005. 5. 31
- 18) 村主明彦：東洋医学のススメ, 生活習慣病と漢方, 禅の友, 平成 17 年 1 月号, 曹洞宗総務庁
- 19) 伊藤 剛, 高橋裕子：夏の「冷え」対策, パフェ夏号, p4~9, (株)プラス出版, 2005. 6. 7
- 20) 伊藤 剛：舌でわかる体の不調, 日経ヘルス 2 月号, p30, 日経 BP 社, (2005)
- 21) 伊藤 剛：解決手帳(13)冷房病・夏の冷え症対策, 日経ヘルス 8 月号, p101-104, 日経 BP 社, (2005)
- 22) 伊藤 剛：東洋医学のススメ, ストレス疾患と漢方医学, 禅の友, 平成 17 年 5 月号, 曹洞宗総務庁
- 23) 伊藤 剛：舌, 暮らし WORLD, 毎日新聞(夕刊), 2005 年 12 月 1 日
- 24) 伊藤 剛：冷えと低体温, あるある大事典-II, 2005. 3. 20, pm 21:00-22:00, 株式会社フジテレビジョン
- 25) 鈴木邦彦, 花輪壽彦：総論-7 漢方 腹部の部分的「冷え」が使用目標となる, 治療増刊号 87(3) : 830-832 (2005)
- 26) 鈴木邦彦：漢方治療で効果が上がらない場合には脾胃を整える, 治療増刊号, 87(3) : 836-838 (2005)
- 27) 鈴木邦彦：東洋医学のススメ, 冷え症と漢方, 禅の友, 平成 17 年 11 月号, 曹洞宗総務庁
- 28) 早崎知幸：東洋医学のススメ, 癌と漢方治療, 禅の友, 平成 17 年 7 月号, 曹洞宗総務庁
- 29) 高橋裕子：東洋医学のススメ, 咳と漢方, 禅の友, 平成 17 年 8 月号, 曹洞宗総務庁
- 30) 五野由佳理：片頭痛と漢方, TUMURA Medical Today, BSC301, 21:35-50, 2005. 3. 16
- 31) 五野由佳理：東洋医学のススメ, 頭痛と漢方, 禅の友, 平成 17 年 9 月号, 曹洞宗総務庁
- 32) 八代忍：東洋医学のススメ, 「膝」, 禅の友, 平成 17 年 3 月号, 曹洞宗総務庁
- 33) 関口敦子：東洋医学のススメ, 「更年期障害」と漢方, 禅の友, 平成 17 年 12 月号, 曹洞宗総務庁
- 34) 有島武志：注目の食事性低血圧に補中益気湯が有効, Japan Medicine 第 1087 号(新聞), 株式会社じほう, 2005. 8. 24
- 35) 有島武志：糖尿病患者の食事性低血圧, 補中益気湯で改善, Medical Tribune(新聞), 38(37), 株式会社メディカルトリビューン, 2005. 9. 16
- 36) 有島武志：東洋医学のススメ, 糖尿病と漢方, 禅の友, 平成 17 年 10 月号, 曹洞宗総務庁

-2. 鍼灸診療部

部長(兼務) 石野尚吾
客員部長(兼務) 柳澤 紘

医師(兼務) 伊藤 剛
 客員医師 八代 忍(3/31まで)
 客員医師 伊東 秀憲
 主任 石原 武
 主任 小山 基
 主任 今泉 護
 非常勤鍼灸師 掛川 一五
 非常勤鍼灸師(兼務) 天野 洋介(11/1から)

診療業務などの活動概要

鍼灸診療部では現在常勤鍼灸師3名、看護師2名のほか、医師4名、非常勤鍼灸師2名が交代で診療にあたり、研修生3名が在籍している。月曜日から土曜日までの午前・午後の診療を予約制として行っている。

毎週1回、診療スタッフをはじめ、研修生を交えて新患を始めとした現在来院中の患者全員について、臨床的な検討を継続的に行なっており、以降の治療に反映させている。

近年では知人や家族の紹介のみならず、インターネットなどのメディアを利用して来所するものや他の医療機関から、あるいは病診連携を進めている北里病院各科からの紹介で来院する患者も多くなった。また6年以上にわたる新聞の連載記事(「鍼灸よろず相談」：日本経済新聞)などの効果もあり、昨年1年間では、1月～12月までの年間総患者数が約17,000人となった。よって1日あたりの平均受診者数が増えたために、一部患者には予約時間などで迷惑をかけた部分もあった。このように鍼灸の受診患者数は年々増加してきている。

毎年夏に恒例となっている医学生のための夏期セミナーでは、東洋医学の知識を得ようとする受講者の医学生や医師が鍼灸の理論や治療法などにも大いに興味をもって意欲的に受講している。また好評の鍼灸実習においては、初めて鍼に触れる者がほとんどで、診察の仕方や経穴の取穴法、鍼の刺入方法などを実地に真剣に会得しようとする姿勢がみられた。見学や研修を希望しての問い合わせも多く、JAICAをはじめとし、医療機関などからも外国人医師の見学者が来所している。

研究概要

- 以下の諸疾患に対する鍼治療の臨床的効果、およびその影響に関する検討と解析を継続して行っている。〔変形性膝関節症、帯状疱疹後神経痛、顔面神経麻痺、慢性関節リウマチ、アトピー性皮膚炎、尿失禁、反射性交感神経性ジストロフィー(RSD)〕
- 疼痛に関する治療効果による経時的变化につ

いての臨床的研究

- 鍼灸治療の免疫機能への影響の検討
- 初診患者の来院契機の情報に関する調査など

学会発表

- 八代 忍, 石野尚吾, 柳澤 紘, 若杉安希乃, 石原 武, 花輪壽彦: 高齢者の転倒予防に対する鍼灸治療の効果について, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005.5.20～22

講演

- H. Yanagisawa, S. Yashiro, S. Ishino and T. Hanawa: Acupuncture for osteoarthritis of the knee, 2005 TWGHs Eddie Wang International Symposium on Integrated Chinese and Western Medicine, Hong Kong, 2005.11.4

その他

- 石野尚吾: 東洋医学のススメ, 腰痛症の鍼灸治療, 禅の友, 平成17年4月号, 曹洞宗総務庁
- 石野尚吾: 鍼灸よろず相談, 日本経済新聞, 毎週火曜日夕刊連載

薬剤部門薬剤部

部門長(兼務)	山田 陽城
部長	金 成 俊
科長代理	緒方 千秋
主任	坂田 幸治
薬剤師	今野 初子(12/1退職)
薬剤師	西郡 秀文
薬剤師	小林 文子
薬剤師	水澤 深雪
薬剤師	中村 恵子
薬剤師(嘱託)	坂本 壮一郎(4/1～)
薬剤師(非常勤)	佐々木 花奈(4/1～)
薬剤師(研究員)	高 際 真奈美(4/1～ 12/1～嘱託)

研究概要

薬剤部では生薬調剤を基本としており、研究所における漢方の臨床薬局として、薬剤業務に関する諸問題改善を前提に各自が研究テーマを定め、テーマ毎に研究活動を行いその成果を学会等に報告している。今年度は各自が担当している研究内容について見直しを行い、年度内の達成目標を明らかにし、その成果を薬剤業務に反映できることを目標としたうえで研究計画を構築した。

今年度の研究内容を以下に示す。

- 1) 種子生薬の刻みの相違による成分抽出への影響
- 2) 漢方薬の抽出エキス量と濃度への影響
- 3) 外来患者の処方解析による服薬指導への応用
- 4) 漢方外来における疾患情報の服薬指導への応用
- 5) リスクマネジメントとしてのプレアボイド報告による薬剤師の医療業務における役割のあり方
- 6) 漢方薬局業務マニュアルの作成と活用
- 7) 病院実習書の作成と病院実習の充実
- 8) 漢方病棟業務の管理体制の充実
- 9) 繁用生薬・処方における品質評価方法の検討
- 10) 医療用漢方製剤のロット間の比較検討
- 11) 漢方薬と他剤併用時の PC 活用による服薬指導の検討
- 12) 古典煎出方法の意義に関する科学的解析
- 13) 生薬標本の総合的な情報の構築
- 14) 煎じ薬含有の無機元素に関する調査
- 15) 煎じ薬のレトルトパックの有用性に関する検討
- 16) 初診患者の健康食品服薬状況の調査
- 17) 服薬時における医師情報の活用に関する検討
- 18) 漢方薬と西洋薬の併用による有用性の検討
- 19) 煎じ薬の苦みに対する飲料水によるマスキング効果の検討

薬剤業務の活動内容

2 年前に開始した「煎じ代行」業務は、身体が不自由、高齢、多忙などの理由により煎じられない患者に、その後も好評を得ており、当薬剤部において新しい漢方薬の剤形として定着しているが、アンケート調査により患者からの意見を参考に、さらに充実させることにした。

また調剤監査の改善においても、ヒヤリハット報告の徹底により、調剤過誤の発生しやすい状況を職員に認識させる事により、調剤過誤 0%を目標に調剤の充実に努めた。

患者から漢方薬の薬効などに関して、薬剤師に対する相談が増加傾向にあり、薬剤師が患者に対して適切な対応が行えるように、薬局勉強会の充実を行った。今年度中に『類聚方広義』の読解を終了し、服薬指導時に活用している『生薬・処方マニュアル』の見直しを実施し、職員のレベルアップを次年度の目標としている。

教育啓蒙活動

薬学大学における教育活動として、帝京大学薬学部東洋医学概論は継続して実施されており、さ

らに明治薬科大学、北里大学薬学部大学院に講師を派遣し、病院漢方薬局の業務に関して講義を行った。来年度から薬学教育が6年制となり、薬学教育においても漢方薬学に関する教育の充実が進められており、病院実習などを含む薬学教育に関して、当薬剤部の役割は益々重要な位置づけになると考えられる。

現在、当薬剤部における病院実習は春期と夏期の年2回行っている。今年度の病院実習では北里大学薬学部、明治大学薬学部、東京薬科大学から16名の薬学生を受け入れた。実習の定員は各8名であるが、常に定員を超える応募があり、全員を受け入れられないため、今後漢方薬局実習について、多くの学生を受け入れられる体制の検討を進めたい。

一方、毎年夏に行われている医学生にたいする漢方薬局実習は例年通り漢方薬に触れる機会の少ない約50名の医師や医学生各自が漢方薬の調剤を行い、実際に煎じ薬を煎じて服用する薬局実習を行った。医学部において漢方医学の講義が実施されており、漢方薬に関心のある医師や薬剤師に、診療部と共に漢方治療の基本である漢方薬の情報を提供することも北里東医研薬剤部の重要な使命と考えている。また日本東洋医学会が主催している医学生に対する卒前教育においても講師を派遣し、漢方薬の調剤や煎じ方などの解説を行っている。

当研究所で主催している「東洋医学健康フォーラム」では、「漢方薬の産地や調剤方法の見学・漢方薬の説明・試飲」など、例年通り大変好評であった。さらに JICA や韓国からの外国医療関係者に対する教育実習を実施し、各国の伝統医学との情報交換が行えた。

< 薬剤部講義・教育・見学研修 >

- 韓国慶熙・圓光・又石大学校韓薬学科教授3名
- 春期薬学生病院実習
(2005, 3, 7-17), 北里大学薬学部5名, 明治薬科大学3名
- 韓国医師会役員5名
- 帝京大学薬学部東洋医学概論(分担講義)
(担当: 金 成俊, 2005, 4-6)
- 明治薬科大学伝統医学概論(分担講義)
(担当: 金 成俊, 2005, 5)
- 北里大学薬学部大学院臨床薬学地域医療薬学(分担講義)
(担当: 金 成俊, 2005, 5)
- 北里大学医療系大学院8名実習
- 夏期薬学生病院実習(2005, 8, 1-12), 北里大学薬学部5名, 明治薬科大学2名, 東京薬科大学1名

- ソウル大学保健大学院社会人海外研修約 20 名：日本漢方の現況について (担当：金 成俊, 2005, 7, 6)
- 第 26 回医学生・研修医のための東洋医学セミナー(2005, 7, 27)
- 講義・見学研修：慶熙大学校薬学部イヨンジュ教授他 学生 4 名
- 平成 17 年度 医学部・医科大学学生のための卒前教育：日本東洋医学会主催 (担当：金 成俊, 2005, 8, 8, 24)
- 講義・見学研修：第 4 回アジア太平洋薬学生会議 20 名(タイ・インドネシア・中国・台湾)
- 講義・見学実習：共立薬科大学菅家甫子教授ワシントン大学薬学部学生 4 名
- 2005 年度 JICA 病院薬学Ⅱ(2005, 11, 29), ガーナ 2 名, ケニア 1 名, ラオス 1 名, レソト 1 名, ニジェール 2 名, パプアニューギニア 1 名, スワジランド 1 名, タイ 1 名, ウガンダ 1 名

論 文

- 1) 金 成俊, 中村恵子, 緒方千秋, 坂田幸治, 山田陽城, 花輪壽彦：北里研究所東洋医学総合研究所における初診患者の解析と医療への活用, *Kampo Medicine*, 56, 2, 287-293 (2005)
- 2) Sung-Joon Kim, M. Mizusawa, C. Ogata, K. Sakata, H. Yamada, S. Ishino, T. Hanawa: Risuks in Dispensing Kampo Medicines and Their Prevention *Kampo Medicine*, 56, 6, 797-803 (2005)
- 3) Sung-Joon Kim, M. Mizusawa, C. Ogata, T. Hanawa, H. Yamada: Examination of the Reasons for Discontinuance of Kampo Medicines (Japanese traditional herbal medicines) and How to Improve Continuance through Patient Instructions, *Japanese Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences*, 31, 1004-1011 (2005)
- 4) 小林文子, 金 成俊, 緒方千秋, 山田陽城, 花輪壽彦：樸椒と土骨皮の来歴, *Journal of Kampo medicine*, 52, 613-626 (2005)
- 5) 西郡秀文, 金 成俊, 坂田幸治, 山田陽城, 石野尚吾, 花輪壽彦：漢方処方の人量と小児量の煎出におけるエキス内容の比較, *Kampo Medicine*, 57, 805-812 (2005)

招待講演

- 1) 金 成俊：漢方薬に用いられる薬用植物の考え方, 第 7 回薬用植物シンポジウム, 北里大学薬学部附属薬用植物園・相模原市 (2005. 6. 4)

- 2) Kim Sung Joon: The Analysis of Patients in the Kampo Clinic and An Examination of the Reasons for Discontinuance Kampo Medicines The 13th International Congress of Oriental Medicine, in Taegu KOREA, 2005. 10. 20~23

学会報告

- 1) 坂田幸治, 西郡秀文, 緒方千秋, 金 成俊, 山田陽城, 花輪壽彦：古典に基づく漢方薬の特殊な煎じ方についての検討—清酒—, 第 56 回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005. 5. 20~22
- 2) 金 成俊, 坂田幸治, 緒方千秋, 山田陽城, 花輪壽彦：北里研究所東洋医学総合研究所漢方外来の処方解析からみた随証治療の意義, 第 56 回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005. 5. 20~22
- 3) 高際真奈美, 清原寛章, 西郡秀文, 坂田幸治, 金 成俊, 花輪壽彦, 山田陽城：和漢薬の品質評価への薬理活性多糖を指標とした多変量解析法の応用の試み, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 4) 金 成俊, 水澤深雪, 緒方千秋, 花輪壽彦, 山田陽城：漢方薬の服用中止症例の原因および服薬指導による改善の検討, 第 15 回日本医療薬学会年会, 岡山, 2005. 10. 1~2
- 5) 金 成俊, 中村恵子, 緒方千秋, 山田陽城, 花輪壽彦：当研究所における漢方薬と西洋薬の併用治療の意義に関する検討, 第 38 回日本薬剤師会学術大会, 広島, 2004. 10. 9~10

その他

- 1) 金 成俊：Introduction to KAMPO (Dosage Forms), *The Japan Society for Oriental Medicine*, 113-116 (2005)
- 2) 金 成俊：韓国韓医学通信(第 2 報), 漢方の臨床, 第 52 巻 1 号 (2005)
- 3) 金 成俊：韓国韓医学通信(第 3 報), 漢方の臨床, 第 52 巻 2 号 (2005)
- 4) 金 成俊：韓国韓医学通信(第 4 報), 漢方の臨床, 第 52 巻 3 号 (2005)
- 5) 金 成俊：韓国韓医学通信(第 5 報), 漢方の臨床, 第 52 巻 4 号 (2005)
- 6) 金 成俊：韓国韓医学通信(第 6 報), 漢方の臨床, 第 52 巻 5 号 (2005)
- 7) 金 成俊：韓国韓医学通信(第 7 報), 漢方の臨床, 第 52 巻 6 号 (2005)
- 8) 金 成俊：韓国韓医学通信(第 8 報), 漢方の臨床, 第 52 巻 7 号 (2005)
- 9) 金 成俊：韓国韓医学通信(第 9 報), 漢方の臨床, 第 52 巻 8 号 (2005)

- 臨床, 第 52 卷 8 号 (2005)
- 10) 金 成俊: 韓国韓医学通信(第 10 報), 漢方の臨床, 第 52 卷 9 号 (2005)
- 11) 金 成俊: 韓国韓医学通信(第 11 報), 漢方の臨床, 第 52 卷 10 号 (2005)
- 12) 金 成俊: 韓国韓医学通信(第 12 報), 漢方の臨床, 第 52 卷 11 号 (2005)
- 13) 金 成俊: 漢方薬の服薬指導, 漢方と最新治療, Vol 14No. 4 2005. 11
- 14) 金 成俊: 韓国韓医学通信(第 12 報), 漢方の臨床, 第 52 卷 11 号 (2005)
- 15) 金 成俊: 漢方医学講座臨床講座—柴胡類方生薬解説—, 日本漢方医学研究所, 2005. 6. 12
- 16) 金 成俊: 漢方医学講座臨床講座—当帰・川芎・地黄類方生薬解説—, 日本漢方医学研究所, 2005. 9. 11
- 17) 金 成俊: 漢方医学講座臨床講座—人参・黄耆類方生薬解説—, 日本漢方医学研究所, 2005. 12. 11
- 18) 金 成俊: 韓薬師(韓国漢方専門薬剤師)漢方の臨床, 第 52 卷 12 号 (2005)

留学研究員

Mali Wirotasangthong (タイ・チュラロンコン大学, 平成 17 年 6 月 7 日～平成 17 年 9 月 4 日)

Cara Perinetti (アメリカ合衆国・ノースキャロライナ大学, 平成 17 年 6 月 15 日～平成 17 年 7 月 20 日)

Narisa Kamkaen (タイ・シーナカリンウィロット大学, 平成 17 年 10 月 1 日～平成 17 年 11 月 26 日)

Ami Fazlin Bt Syed Mohamed (マレーシア・マレーシア医学研究所, 平成 17 年 11 月 26 日～平成 17 年 12 月 16 日)

研究生

高 橋 哲 史 (北里大学大学院・薬学研究科博士課程院生)

研究生

佐 柳 友 規 (北里大学大学院・感染制御科学府博士課程院生)

研究生

稲 垣 弥 生 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

中 尾 麻里乃 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

野 口 昌 朗 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

松 木 裕 二 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

松 崎 敏 明 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

橋 本 良 子 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

平 原 博 貴 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

守 屋 美千代 (北里大学大学院・感染制御科学府修士課程院生)

・ 研究部門

研究部門長 山 田 陽 城 (兼担)

研究生

-1. 基礎研究部

部長 (兼担) 山 田 陽 城 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室教授・同大学院感染制御科学府教授)

研究生

副部長 (兼担) 清 原 寛 章 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室助教授)

研究生

室長補佐 (兼担) 永 井 隆 之 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師)

研究生

室長補佐 (兼担) 松 本 司 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師)

研究生

室長補佐 (兼担) 矢 部 武 士 (北里大学北里生命科学研究所和漢薬物学研究室講師)

研究生

研究員 (兼務) 金 成 俊
(薬剤部副部長)

研究員 (兼務) 坂 田 幸 治
(薬剤部副主任)

研究員 (兼務) 西 郡 秀 文
(薬剤部薬剤師)

客員研究員 布 目 慎 勇

研究概要

基礎研究部では漢方薬の薬効の科学的解明を目的として漢方方剤や生薬の薬理及びその作用成分の解明や作用機序の生化学的解明に関する研究を

行っている。特に漢方処方薬の薬効解明では臨床効果との関連を検討するため臨床研究部との共同研究も進めている。研究テーマは「漢方処方薬の薬効と作用物質の解明」、「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」、「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」の3つに大別される。

本年度の研究テーマのうち、「漢方処方薬の薬効と作用物質の解明」では、1) 小青竜湯の気道炎症に対する薬効機序のプロテオーム解析、2) 香蘇散の抗うつ作用の機序とその薬効成分の解析、3) 加味温胆湯の抗うつ作用の機序の解析について検討した。「和漢薬中の多糖成分の役割の解明」では、1) 和漢薬由来の腸管免疫調節活性を有する arabino-3,6-galactan 多糖中の活性発現オリゴ糖鎖の解明へのオリゴ糖鎖を指標とした多変量解析の適応とその和漢薬の品質管理への応用、2) 補中益気湯の粘膜免疫系の賦活化作用成分の解析、3) メシマコブの高分子多糖成分と腸管免疫系に対する作用の解析について検討した。「和漢薬の新しい作用とその作用物質の解明」では、1) マラリアやヘリコバクターピロリなどに対する抗感染症物質の探索のための評価系の構築と、和漢薬などの植物素材からの活性物質の探索研究、2) 炎症性腸疾患治療薬の開発を目的とした病態モデルの構築と和漢薬の作用ならびに作用成分、3) 和漢薬の中樞神経系に対する作用の解析のための基盤研究について検討を行った。

また、日タイ拠点大学方式学術交流事業の一環として、タイのシーナカリンウィロット大学薬学部の Narisa Kamkaen 講師を留学研究員として受け入れ、日タイ産生薬からの抗感染症薬の探索に関する共同研究を展開した。さらに、タイ・チュラロンコン大学の Mali Wirotasangthong 講師が留学研究員として抗インフルエンザウイルス薬探索の共同研究を行った。基礎研究部ではこの他国内やタイ、エジプト、サウジアラビア、ノルウェー、フランスなどの国外研究機関および大学などとの種々の共同研究を継続して進めている。

著 書

- 1) H. Yamada and I. Saik : Juzen-taiho-to (Shi-Quan-Da-Bu-Tang) -Scientific Evaluation and Clinical Applications, CRC press, 2005
- 2) H. Yamada: Chapter 1- Introduction: What is Kampo medicine? In: Juzen-taiho-to (Shi-Quan-Da-Bu-Tang) -Scientific Evaluation and Clinical Applications (edited by H. Yamada and I. Saiki), 1-6, CRC press, 2005
- 3) S. Nunome, H. Kiyohara, K. Komatsu and T. Takeda: Chapter 2- Crude drugs of

Juzen-taiho-to. In: Juzen-taiho-to (Shi-Quan-Da-Bu-Tang) -Scientific Evaluation and Clinical Applications (edited by H. Yamada and I. Saiki), 7-56, CRC Press, 2005

- 4) T. Matsumoto and H. Yamada : Chapter 4- Immunological properties of Juzen-taiho-to. In: Juzen-taiho-to (Shi-Quan-Da-Bu-Tang) -Scientific Evaluation and Clinical Applications (edited by H. Yamada and I. Saiki), 65-84, CRC Press, 2005
- 5) H. Kiyohara and H. Yamada : Chapter 7- The search for active ingredients of Juzen-taiho-to. In: Juzen-taiho-to (Shi-Quan-Da-Bu-Tang) -Scientific Evaluation and Clinical Applications (edited by H. Yamada and I. Saiki), 115-139, CRC Press, 2005
- 6) 山田陽城 (共著), スタンダード薬学シリーズ 3, 化学系薬学 III. 自然が生み出す薬物 (日本薬学会編), 東京化学同人, 2005

原 著

- 1) T. Yabe, T. Sanagi, J. P. Schwartz and H. Yamada : Pigment epithelium-derived factor induces pro-inflammatory genes in neonatal astrocytes through activation of NF-kB and CREB, GLIA, 50(3), 223-234 (2005)
- 2) T. Sanagi, T. Yabe and H. Yamada : The regulation of pro-inflammatory gene expression induced by pigment epithelium-derived factor in rat cultured microglial cells, Neuroscience Letters, 380(1-2), 105-110 (2005)
- 3) C. S. Nergard, T. Matsumoto, M. Inngjerdigen, K. Inngjerdigen, S. Hokputsa, S. E. Harding, T. E. Michaelsen, D. Diallo, H. Kiyohara, B. S. Paulsen and H. Yamada : Structure and immunological studies of a pectin and pectic arabinogalactan from *Vernonia kotschyana* Sch. Bip. Ex walp.(Asteraceae), Carbohydr. Res., 340(1), 115-130 (2005)
- 4) C. S. Nergard, D. Diallo, K. Inngjerdigen, T. E. Michaelsen, T. Matsumoto, H. Kiyohara, H. Yamada and B. S. Paulsen: Medicinal use of *Cochlospermum tinctorium* in Mali. Anti-ulcer-, radical scavenging- and immunomodulating activities of polymers in the aqueous extract of the roots, J. Ethnopharmacol., 96(1-2), 255-269 (2005)
- 5) T. Matsumoto, K. H. Nishiyama, Y.-J. Guo, T. Ikejima and H. Yamada: A possible signal transduction pathway for cyclin D2 expression

- by a pectic polysaccharide from the roots of *Bupleurum falcatum* L in murine B cell, *Int. Immunopharmacol.*, 5(9), 1373-1386 (2005)
- 6) T. Yabe, K. Kanemitsu, T. Sanagi, J. P. Schwarz and H. Yamada: Pigment epithelium-derived factor induces pro-survival gene through CREB and NF-kB activation in rat cultured cerebellar granule cells: Implication for its neuroprotective effect, *Neuroscience*, 133(3), 691-700 (2005)
 - 7) T. Nakagawa, T. Yabe and J. P. Schwartz: Gene expression profiles of reactive astrocytes cultured from dopamine-depleted striatum, *Neurobiol Dis.*, 20(2), 275-282 (2005)
 - 8) A. Takanoashi, T. Yabe and J. P. Schwartz: PEDF induces the production of chemokines by rat microglia, *GLIA*, 51(4), 266-278 (2005)
 - 9) M. Nakamura, T. Takahashi, T. Matsumoto, K. Atsuda, N. Hibi, H. Matsui, H. Yamada and K. Tsuchimoto: Direct autoradiographic evidence that rebamipide interacts with neutrophils in dextran sulfate sodium induced colitis in rats, *Dig Dis Sci.*, 50, Suppl 1, S113-118 (2005)
 - 10) C. S. Nergard, H. Kiyohara, J. C. Reynolds, J. E. Thomas-Oates, T. Matsumoto, H. Yamada, T. E. Michaelsen, D. Diallo and B. S. Paulsen: Structure-immunomodulating activity relationships of a pectic arabinogalactan from *Vernonia kotschtana* Sch. Bip. Ex walp., *Carbohydr. Res.*, 340(11), 1789-1801 (2005)

総 説

- 1) T. Matsumoto, H. Kiyohara and H. Yamada: Modulation of the intestinal immune system by Kampo medicines, *Jpn. J. Pediatr. Surg.*, 37(3), 271-274 (2005)
- 2) H. Yamada: Studies on elucidation of action mechanism and active ingredients of Kampo medicines by basic research, *J. Trad. Med.*, 22(5), 263-277 (2005)

プロシーディング

- 1) T. Nagai, H. Kiyohara, T. Sunazuka, S. mura and H. Yamada: Intranasally and orally effective adjuvants from Chinese and Japanese medicinal herbs for nasal influenza vaccine, *Quality, Efficacy, Safety, Processing and Trade in Medical and Aromatic Plants, Acta Horticulturae*, No. 679 : pp.121-129 (2005)
- 1) H. Yamada: Action mechanism and active ingredients of Kampo (Japanese herbs) medicines on immune, neural and endocrine systems, *International Congress on Complementary and Alternative Medicines (ICCAM) 2005*, Singapore, 2005. 2. 26~28
- 2) H. Yamada: Possible mechanism of pharmacologically active pectins from medical herbs, *The 229th American Chemical Society (ACS) Meeting, San Diego (U.S.A.)*, 2005. 3. 13~17
- 3) 山田陽城: 感染症と漢方, 日本東洋医学会中四国支部岡山県部会 第19回総会・学術講演会, 岡山, 2005. 3. 27
- 4) 山田陽城: 漢方由来の多糖の構造と生物活性, 富山医科薬科大学大学院講義, 富山, 2005. 5. 31
- 5) 山田陽城: 漢方薬の作用メカニズムと薬効成分, 新潟薬科大学特論セミナー, 新潟, 2005. 6. 15
- 6) 山田陽城: 漢方薬の免疫・神経系に対する作用と予防医学への展開, 千葉大学大学院講義, 千葉, 2005. 6. 24
- 7) 山田陽城: 現代医療における漢方薬の役割, 東京薬科大学大学院講義, 東京, 2005. 7. 6
- 8) 山田陽城: 和漢薬研究-基礎研究者の役割-, 第22回和漢薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 9) 山田陽城: 食物アレルギーモデルおよび気道炎症モデルマウスを用いた漢方薬の有効性の検討, 第27回日本小児東洋医学会秋季大会, 神戸, 2005. 9. 25
- 10) 山田陽城: Action mechanism and active ingredients of Kampo (Japanese herbal) medicine on immune, neural endocrine systems, 第4回海外中医薬同窓会学術大会, 神奈川, 2005. 10. 30~31
- 11) 山田陽城: 基礎研究としての東洋医学, 北里研究所東洋医学総合研究所医療系研究会, 東京, 2005. 11. 18.
- 12) 山田陽城: 漢方薬由来ペクチン性多糖の構造と薬理活性, 北陸大学学術フロンティア・サテライトミーティング-糖鎖関連化合物の生物活性-, 京都, 2005. 11. 21~22
- 13) H. Yamada: Structure and intestinal immunity enhancing activity of pectins from medicinal herbs, *The 2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2005)*, Hawaii (U.S.A.), 2005. 12. 15~20

招待講演

- 14) H. Yamada : Action mechanism and active ingredients of Kampo (Japanese herbal) medicines on immune and neural systems, The 2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2005), Hawaii (U.S.A.), 2005, 12. 15~20
- 15) H. Yamada : The evidence-based and clinical application of KAMPO (Traditional Japanese herbal) medicine, Hawaii 大学医学部での講演, Hawaii (U.S.A.), 2005. 12. 16

シンポジウム

- 1) 清原寛章：粘膜免疫機構に対する補剤の作用と作用成分, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 2) 山田陽城：和漢薬および東南アジア生薬の抗感染作用と作用成分, 第 49 回日本薬学会関東支部大会, 東京, 2005. 10. 8
- 3) 永井隆之, 清原寛章, 松本司, 山田陽城：漢方方剤の気道粘膜免疫系を介した薬効発現機序の解析, 第 15 回天然薬物の開発と応用シンポジウム, 東京, 2005. 11. 10~11

学会発表

- 1) 高際麻奈未, 清原寛章, 松本司, 山田陽城：和漢薬由来薬理活性多糖中のオリゴ糖鎖を指標とした多変量解析の品質評価法への応用の試み, 日本薬学会第 125 年会, 東京, 2005. 3. 29~31
- 2) 成川晃代, 永井隆之, 伊藤直樹, 竹田忠紘, 花輪壽彦, 山田陽城：うつ様モデルマウスを用いたうつ病態の発症機序及び漢方方剤「香蘇散料」の作用の検討, 日本薬学会第 125 年会, 東京, 2005. 3. 29~31
- 3) 西尾昌子, 矢部武士, 中川敬夫, J. P. Schwartz, 山田陽城：Reactive astrocyte による神経細胞の分化制御, 日本薬学第 125 年会, 東京, 2005. 3. 29~31
- 4) 野中一樹, 清原寛章, 永井隆之, 松本司, 山田陽城：補中益気湯の腸管および気道粘膜免疫系に対する作用の解析と他の補剤との比較, 日本薬学会第 125 年会, 東京, 2005. 3. 29~31
- 5) 永井隆之, 三木和彦, 高橋邦夫, 山田陽城：新奇ビフラボノイドシアル酸配糖体のインフルエンザウイルスシアリダーゼ阻害活性及び抗インフルエンザウイルス活性の検討, 日本薬学会第 125 年会, 東京, 2005. 3. 29~31
- 6) 三木和彦, 木下薫, 小山清隆, 高橋邦夫, 永井隆之, 山田陽城, 古畑公夫：シアル酸を用いた新奇ビフラボノイド配糖体による抗イン

- フルエンザウイルス薬の開発, 日本薬学会第 125 年会, 東京, 2005. 3. 29~31
- 7) 西村佳子, 松本司, 竹田忠紘, 田淵圭章, 帯刀益夫, 山田陽城：酪酸による結腸上皮細胞死の誘導と和漢薬の抑制効果, 日本薬学会第 125 年会, 東京, 2005. 3. 29~31
- 8) 高橋哲史, 中村正彦, 土本寛二, 山田陽城, 松本司, 松井英則：宿主胃表層粘膜細胞由来の液性因子は *Helicobacter pylori* の増殖を促進する, 日本薬学会第 125 年会, 東京, 2005. 3. 29~31
- 9) 清原寛章, 高際麻奈未, 野中一樹, 松本司, 山田陽城：薬理活性を有する植物多糖からの有用オリゴ糖鎖の選別への多変量解析の応用, 第 25 回日本糖質学会年会, 滋賀, 2005. 7. 20~22
- 10) 永井隆之, 成川晃代, 伊藤直樹, 竹田忠紘, 花輪壽彦, 山田陽城：香蘇散料のインターフェロン- α 誘発うつ様モデルマウスに対する薬効発現機序の解析, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 11) 伊藤直樹, 矢部武士, 永井隆之, 山田陽城, 花輪壽彦：香蘇散料の抗うつ様作用メカニズムの解明-脳内 neurogenesis に対する作用の検討-, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 12) 稲垣弥生, 伊藤直樹, 矢部武士, 永井隆之, 花輪壽彦, 山田陽城：神経幹細胞の増殖・分化を指標とした加味温胆湯の薬効解析, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 13) 早崎知幸, 松本司, 遠藤真理, 山田陽城, 花輪壽彦：食物アレルギーモデルマウスを使った桂枝加芍薬湯の有効性の検討, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 14) 中尾麻里乃, 永井隆之, 小寺義男, 大石正道, 前田忠計, 山田陽城：気道炎症モデルマウスに対する小青竜湯の作用のプロテオーム解析による検討, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 15) 細野加奈子, 松本司, 清原寛章, 渥美隆正, 西澤愛, 山田陽城：紫梗エキスによる表皮ケラチノサイトの IL-8 産生抑制, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 16) 松本司, 西村佳子, 竹田忠紘, 田淵圭章, 帯刀益夫, 山田陽城：酪酸によって誘発される結腸上皮細胞死に対する和漢薬の効果, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 17) 松本裕二, 市野力, 高橋哲史, 清原寛章, 松本司, 山田陽城：紅大戟中の抗 *Helicobacter pylori* 活性物質の解析, 第 22 回和漢医薬学

会大会，東京，2005.8.20～21

- 18) 高際麻奈未，清原寛章，西郡秀文，坂田幸治，金成俊，松本司，花輪壽彦，山田陽城：和漢薬の品質評価への薬理活性多糖を指標とした多変量解析法の応用の試み，第22回和漢医薬学会大会，東京，2005.8.20～21
- 19) 市野力，清原寛章，布目慎勇，N. Soonthornchareonnon，C. Wongsatit，R. Nijisiri，P. Ampai，石山亜紀，関口ひとみ，生田目幸，乙黒一彦，大村智，山田陽城：中国産およびタイ産生薬より単離された化合物の抗マラリア活性について，日本生薬学会第52回年会，金沢，2005.9.16～17
- 20) 松木裕二，市野力，高橋哲史，清原寛章，松本司，山田陽城：紅大戟中の抗 *Helicobacter pylori* 活性物質，日本生薬学会第52回年会，金沢，2005.9.16～17
- 21) 金玉花，羽田紀康，竹田忠紘，山田陽城：柴胡由来ペクチン様多糖体のモデル化合物の合成(6)，日本生薬学会第52回年会，金沢，2005.9.16～17
- 22) 清原寛章，松本司，高橋宏之，平山秀樹，山田陽城：天然メシマコブ子実体の腸管免疫調節高分子成分の解析，日本生薬学会第52回年会，金沢，2005.9.16～17
- 23) 佐々木寛朗，三木和彦，木下薫，小山清隆，高橋邦夫，永井隆之，山田陽城：チョウセンマキの成分探索，日本生薬学会第52回年会，金沢，2005.9.16～17
- 24) 佐柳友規，矢部武士，山田陽城：
Neuroprotective Effect of Pigment Epithelium-Derived factor (PEDF)- Expressing Adenoviral Vector in the Quinolinic Acid Rat Model of Huntington Disease，第48回日本神経化学学会大会，福岡，2005.9.28～30
- 25) 三木和彦，永井隆之，木下薫，小山清隆，古畑公夫，山田陽城，高橋邦夫：ビフラボノイドのシアル酸配糖体による抗インフルエンザウイルス薬の開発，第15回天然薬物の開発と応用シンポジウム，東京，2005.11.10～11
- 26) 金玉花，岡純子，羽田紀康，竹田忠紘，山田陽城：柴胡由来ペクチン性多糖のモデル化合物の合成と生物活性，第15回天然薬物の開発と応用シンポジウム，東京，2005.11.10～11
- 27) 矢部武士：**Neuro protective effect of pigment epithelium-derived factor (PEDF) delivered via Adenoviral vector in the quinolinic acid rat model of huntington s disease**，第35回北米神経化学学会，アメリカ合衆国（ワシントンD.C.），2005.11.12～16

その他

- 1) 中尾麻里乃，永井隆之，小寺義男，大石正道，前田忠計，山田陽城：気道炎症モデルマウスに対する漢方方剤「小青竜湯」の作用のプロテオーム解析による検討，第3回北里疾患プロテオーム研究会，相模原，2005.8.26

-2. 臨床研究部

臨床研究部部長	花輪壽彦（兼務）
主任研究員	日向須美子（専任）
研究員	遠藤真理（専任）
	伊藤直樹（専任）
	金成俊（兼務）
	坂田幸治（兼務）
鍼灸研究室室長	石野尚吾（兼務）
研究員	伊藤剛（兼務）
	今泉護（兼務）
	石原武（兼務）
	小山基（兼務）
	柳澤紘（兼務）
	掛川一五（兼務）
漢方研究室室長	村主明彦（兼務）
研究員	伊藤剛（兼務）
	及川哲郎（兼務）
	鈴木邦彦（兼務）
	早崎知幸（兼務）
	高橋裕子（兼務）
	五野由佳理（兼務）
	関口敦子（兼務）
	有島武志（兼務）
	斉藤絵美（兼務）
	石井恵美（兼務）
	柳澤紘（兼務）
	頼建守（兼務）
	早崎理香（兼務）
	櫻井正智（兼務）
	八代忍（兼務）
大学院生	小田口浩
	若杉安希乃
	伊東秀憲
	正田久和
	蒲生裕司
	星野卓之
	渡邊浩二
研究生	吉永明史
	熊谷由紀絵
	山田純子
	浜田幸宏
	西村郁子
	玄世鋒

長谷川 愛 子
米 田 吉 位
秋 元 寛 正
三 好 由香里
櫻 田 徳 子
櫻 井 智 子
伊 藤 香 織
杉 崎 麻 耶
住母家 沙 織
田 中 絵 美
小 林 友 依
原 田 郁 代

研究概要

臨床研究部は、漢方診療部および鍼灸診療部との連携のもとで、漢方薬、鍼刺激の臨床効果の評価を行うと共に、その作用機序の解明や新たな薬効の開発を目的とした臨床研究、基礎研究を行っている。そのため、専任のスタッフのみならず、医師、鍼灸師、薬剤師等の多くが兼務研究員として参画し、以下の研究を行っている。

- (1) 「がん転移に対する漢方薬の作用機構の解明」
漢方薬によるがん再発防止療法の確立を目指して、がん転移を抑制するような漢方薬をスクリーニングし、その作用機構を解析している。
- (2) 「エストロゲン受容体に対する漢方薬の作用機序」
更年期障害に用いられる漢方薬がエストロゲン様活性を有することを明らかにし、このような漢方薬はエストロゲン受容体に結合するのか、また、更年期障害モデルマウスに対してどのような効果を示すのかを検討している。
- (3) 「食物アレルギーに対する漢方方剤の有効性」
食物アレルギーの乳幼児に対して漢方薬が有用な例が多く見られる。そこで、マウスを用いてアレルギーを引き起こすメカニズムの解明と漢方方剤の有用性を検討している。
- (4) 「香蘇散料の抗うつ様作用メカニズムの解明」
漢方処方香蘇散料の抗うつ様効果をストレス誘発うつ様モデルマウスを用いて基礎レベルで検証している。
- (5) 「腹証と舌証など漢方医学概念の科学的解明」
漢方の診断で欠くことのできない重要な診断法である、腹証や舌証の現代医学的評価とその意義について科学的に研究している。
- (6) 「冷え性の病態解明と漢方治療について」
未だ科学的解明がされていない冷え症について、その病態と漢方方剤の有用性について臨床研究を行っている。

- (7) 「漢方薬の効果を評価するための臨床」
慢性頭痛に対する呉茱萸湯の効果を評価するためにレスポンドー限定ランダム化比較試験を実施している。慢性頭痛に対する呉茱萸湯の効果を検討するためのレスポンドー限定二重盲検プラセボ対照比較試験の実施を通じて、漢方医学に適したEBMのあり方について検討している。
- (8) 「漢方医学にいう「気」の科学的解明」
特に自律神経と「気」の関係を解明するために電子瞳孔計を用いた自律神経機能評価法を確立し、この方法により気剤の効果を評価可能であるか検討している。
- (9) 「漢方薬の情動に対する影響」
当研究所で用いられている漢方処方の情動に対する影響を質問紙を用いて評価している。また、ラットやマウスを用い、これらの処方の作用機序を解明している。

原著論文・総説

- 1) Y. Kumagai, S. Hyuga, M. Hyuga, K. Watanabe, T. Kawanishi and T. Hanawa, Estrogen-like activity in Kampo medicines used for menopausal symptoms and gynecological diseases, *J. Trad. Med.*, 22(4):228-236, 2005
- 2) 若杉安希乃, 小田口浩, 正田久和, 伊東秀憲, 花輪壽彦:漢方薬が瞳孔反応に及ぼす影響について—第二報—, 自律神経, 第42巻第3号, 245-249, 2005
- 3) 小田口浩, 若杉安希乃, 花輪壽彦:頭痛の漢方治療における性差, 性差と医療, vol. 2, 749-752
- 4) 小田口浩, 花輪壽彦:頭痛治療における相補代替医療, 医学のあゆみ, vol. 215, 1137-1140, 2005

学会発表・研究会発表

- 1) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲, 五野由佳理, 花輪壽彦:慢性頭痛患者に対する呉茱萸湯一律投与研究-呉茱萸湯証の再考-, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005. 5. 20~22
- 2) 若杉安希乃, 小田口浩, 正田久和, 伊東秀憲, 五野由佳理, 花輪壽彦:五苓散・呉茱萸湯の慢性頭痛および瞳孔反応に及ぼす影響, 第56回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005. 5. 21~22
- 3) 日向須美子, 日向昌司, 中西速夫, 関田節子, 花輪壽彦:麻黄湯の癌転移抑制効果, 第22回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~22

- 4) 遠藤真理, 花輪壽彦: 芍薬甘草湯の芍薬及び甘草の配合比についての検討, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 5) 伊藤直樹, 矢部武士, 永井隆之, 山田陽城, 花輪壽彦: 香蘇散料の抗うつ様作用メカニズムの解明-脳内 neurogenesis に対する作用の検討-, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 21~22
- 6) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲, 蒲生祐司, 渡辺浩二, 星野卓之, 花輪壽彦: 半夏厚朴湯服用による脳筋酸素飽和度バランス改善効果の検討, 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~22
- 7) 若杉安希乃, 小田口浩, 伊東秀憲, 正田久和, 蒲生裕司, 星野卓之, 渡辺浩二, 花輪壽彦: 瞳孔反応からみる自律神経バランスに漢方薬が及ぼす影響について(2), 第 22 回和漢医薬学会大会, 東京, 2005. 8. 20~21
- 8) 日向須美子, 日向昌司, 中西速夫, 花輪壽彦: 麻黄湯による高転移性癌細胞の転移抑制効果, 第 63 回日本癌学会学術総会, 札幌, 2005. 9. 14~16
- 9) Hiroshi Odaguchi, Akino Wakasugi, Hisakazu Shoda, Hidenori Ito, Toshihiko Hanawa, Yukari Gono, Mari Endo, Sung-Joon Kim, Fumihiko Sakai :Efficacy of goshuyuto, the representative Kampo (Japanese herbal) medicine for headache, in chronic headache: a responder-limited, randomized, double-blind, placebo-controlled trial, Congress of the International Headache Society, Kyoto, 2005. 10. 9-12
- 10) 小田口浩, 若杉安希乃, 正田久和, 伊東秀憲, 蒲生裕司, 渡辺浩二, 星野卓之, 花輪壽彦: 心拍変動で評価した自律神経バランスに及ぼす漢方薬服用の効果, 第 58 回日本自律神経学会, 千葉, 2005. 10. 27~28
- 11) 若杉安希乃, 小田口浩, 伊東秀憲, 正田久和, 蒲生裕司, 星野卓之, 渡辺浩二, 花輪壽彦: 漢方薬が瞳孔反応に及ぼす影響について-第三報-, 第 58 回日本自律神経学会総会, 千葉, 2005. 10. 27~28
- 12) 若杉安希乃, 小田口浩, 伊東秀憲, 正田久和, 蒲生裕司, 星野卓之, 渡辺浩二, 花輪壽彦: 漢方薬が瞳孔反応・心拍変動に及ぼす影響について, 第 58 回日本自律神経学会総会, 千葉, 2005. 10. 27~28
- 13) 日向須美子: 漢方薬の研究~細胞生物学的・分子生物学的アプローチ~, 第 27 回東洋医学セミナー, 東京, 2005. 7. 27
- 14) 星野卓之: 漢方と CAM~漢方に期待されるも

の~: 第 5 回北里看護研究会, 神奈川, 2005. 12. 17

-3. 医史学研究部

部長	小曾戸	洋
研究員	友部	和弘
	天野	陽介
	岡部	悦子
科研費研究員	大津	幸恵
	小林	健二
	町	泉寿郎
客員研究員	猪飼	祥夫
	上村	元願
	大浦	宏勝
	大塚	桂子
	郭	秀梅
	黄	崇修
	A. Goble	
	篠原	孝市
	鈴木	達彦
	舘野	正美
	戸出	一郎
	西巻	明彦
	長野	仁幸
	野澤	隆幸
	浦山	きか
	水野	洋子
	三橋	かほり
	宮川	浩也
	矢数	芳英

研究概要

当研究部の前身は 1983 年に設置された医史学研究室で、1992 年 12 月より医史学研究部に昇格し、この下に医史文献研究室が置かれる。東洋医学は古い歴史を持つ伝統医学であるから、豊富な経験と知識の多くは古文献の形で伝えられている。従って、東洋医学を研究し、現代に十分に応用していくためには、まず歴史背景そして文献資料を把握し、その本質を明らかにする必要がある。これが当研究部の研究目的とするところで、開設以来、各研究員によって多種多彩な研究が活発になされ、日本医史学会・日本東洋医学会をはじめ、各種の学会で大きな成果を上げている。研究の基本的資料となる文献の整備にも精力を注ぎ、既に日本全国はもとより、外国の特殊研究機関と交流を結び、多くの貴重資料を獲て収蔵している。

学会発表

- 1) 小曾戸洋, 水野洋子, 石野尚吾, 花輪壽彦:

君臣佐使の解釈, 第 56 回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005. 5. 20~22

- 2) 友部和弘, 石野尚吾, 花輪壽彦: 『解体発蒙』と刺絡, 第 56 回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005. 5. 20~22
- 3) 長野仁, 小曾戸洋, 石野尚吾, 花輪壽彦, 多留淳文: 日本鍼灸史上における沢庵禅師の影響力について, 第 56 回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005. 5. 20~22
- 4) 天野陽介, 宮川浩也, 小曾戸洋, 小林健二, 石野尚吾, 花輪壽彦: 『雑療方』の写真版再考, 第 56 回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005. 5. 20~22
- 5) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 石野尚吾, 花輪壽彦: 新出の幕府医学館講書記録(上海図書館所蔵), 第 56 回日本東洋医学会学術総会, 富山, 2005. 5. 20~22
- 6) 猪飼祥夫: 「長沙走馬楼三国呉簡・竹簡」と「傷寒論」, 第 106 回日本医史学会学術大会, 東京, 2005. 6. 25~26
- 7) 郭秀梅: 「分等」から「等分」への変遷, 第 106 回日本医史学会学術大会, 東京, 2005. 6. 25~26
- 8) 西巻明彦: 『口歯類要』の治療範囲, 第 106 回日本医史学会学術大会, 東京, 2005. 6. 25~26
- 9) 鈴木達彦, 遠藤次郎, 中村輝子: 甲賀通元『古今方彙』の検討, 第 106 回日本医史学会学術大会, 東京, 2005. 6. 25~26
- 10) 水野洋子, 小曾戸洋: 古方派の君臣佐使に対する解釈, 第 106 回日本医史学会学術大会, 東京, 2005. 6. 25~26
- 11) 大浦宏勝: 葦原檢校の遺跡と木像について~『鍼道発秘』を著し, 木曾家再興を果たした生涯, 第 106 回日本医史学会学術大会, 東京, 2005. 6. 25~26
- 12) 天野陽介, 宮川浩也, 小林健二, 野澤隆幸: 『日本医譜』に記された脈診による天災予知, 第 106 回日本医史学会学術大会, 東京, 2005. 6. 25~26
- 13) 三橋かほり: 近代中国における平民教育運動~定県実験区における農民教育と衛生, 第 106 回日本医史学会学術大会, 東京, 2005. 6. 25~26

シンポジウム・講演会

- 1) 小曾戸洋: 『神農本草経の思想』, 日本東洋医学会関東甲信越地区平成 16 年度春季教育講演会, 教育講演, 東京, 2005. 3. 13
- 2) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 花輪壽彦: 曲直瀬養安

院文書の研究(一)~家系と肖像, 第 106 回日本医史学会学術大会, シンポジウム I: 「江戸モノづくり」における医史学研究~拡充と越境, 東京, 2005. 6. 25~26

- 3) 小曾戸洋, 友部和弘, 町泉寿郎: 曲直瀬養安院文書の研究(二)~文書の概要(上), 第 106 回日本医史学会学術大会, シンポジウム I: 「江戸モノづくり」における医史学研究~拡充と越境, 東京, 2005. 6. 25~26
- 4) 友部和弘, 町泉寿郎, 小曾戸洋: 曲直瀬養安院文書の研究(三)~文書の概要(下), 第 106 回日本医史学会学術大会, シンポジウム I: 「江戸モノづくり」における医史学研究~拡充と越境, 東京, 2005. 6. 25~26
- 5) 小曾戸洋: 中医学における日本考証学派の影響, 全日本鍼灸学会東京地方会平成 17 年度第 2 回研修会, 教育講演, 東京, 2005. 7. 10
- 6) 小曾戸洋: 医史学~最近の話題「大塚敬節先生と矢数道明先生」, 日本東洋医学会関東甲信越支部平成 17 年度第 1 回東京都部会, 教育講演, 2005. 10. 30

原 著

- 1) 小曾戸洋, 天野陽介, 野澤隆幸, 小林健二: 石原保秀・東亜医学協会旧蔵古医書(日漢研本)の概要, 漢方の臨床, 52(4): 630-640 (2005)
- 2) 府和隆子, 小曾戸洋, 谿忠人: 『脾胃論』における生薬の用法と『内外傷弁惑論』との関連, 薬史学雑誌, 40(1): 13-21 (2005)
- 3) 小曾戸洋: 宋版『備急総効方』的文献研究, 中華医史雑誌, 35(3): 132-137 (2005)
- 4) 町泉寿郎, 小曾戸洋, 天野陽介, 花輪壽彦: 医家合田家の歴史と蔵書, 日本医史学雑誌, 51(4): 527-548 (2005)
- 5) 小曾戸洋: 漢方医学の歴史と女性医療, 産婦人科治療, 2006 増刊号: 未定 (2006)

その他

- 1) 小曾戸洋: 書誌形態学から見た古医書の変遷, 福岡医師漢方研究会例会, 教育講演, 福岡, 2005. 11. 12
- 2) 小曾戸洋: 医学書の分類, 国文学研究史料館古典籍分類研究会「日本古典籍特定コレクションの目録化の研究」第 4 回研究会, 東京, 2005. 12. 16
- 3) 小曾戸洋: 現代日本漢方の歴史的背景, 明日の漢方を考える筑豊シンポジウム, 基調講演, 2006. 1. 28
- 4) 小曾戸洋: 目で見ると漢方史料館(200)『医宗

- 金鑑』, 漢方の臨床, 52 (4) : 2-4 (2005)
- 5) 小曾戸洋 : 目で見る漢方史料館 (201) 『備急
総効方』, 漢方の臨床, 52 (5) : 2-4 (2005)
 - 6) 小曾戸洋 : 目で見る漢方史料館 (202) 「宋版
傷寒論」和刻最善の堀川本 (その1), 漢方の
臨床, 52 (6) : 2-4 (2005)
 - 7) 小曾戸洋 : 目で見る漢方史料館 (203) 「宋版
傷寒論」(その2) 堀川本の序跋, 漢方の臨床,
52 (7) : 2-4 (2005)
 - 8) 小曾戸洋 : 目で見る漢方史料館 (204) 『宋版
傷寒論』(その3) 和刻の諸版本, 漢方の臨床,
52 (8) : 2-4 (2005)
 - 9) 小曾戸洋 : 目で見る漢方史料館 (205) 『宋版
傷寒論』その4, 漢方の臨床, 52 (9) : 2-4 (2005)
 - 10) 小曾戸洋 : 目で見る漢方史料館 (206) 畏るべ
し若き漢方家の気概〜矢数道明書簡, 漢方の
臨床, 52 (10) : 1-3, 36-40 (2005)
 - 11) 小曾戸洋, 町泉寿郎 : 目で見る漢方史料館
(207) 曲直瀬養安院家の人々 (1), 漢方の臨
床, 52 (11) : 2-4 (2005)
 - 12) 小曾戸洋, 町泉寿郎 : 目で見る漢方史料館
(208) 曲直瀬養安院家の人々 (2), 漢方の臨
床, 52 (12) : 2-4 (2005)
 - 13) 小曾戸 洋 : 中国宋元明の医薬書の研究とその
成果の公判, 上原記念生命科学財団研究報告
集, 19 卷 : 68~74 (2005)
 - 14) 小曾戸 洋 : 文庫めぐり (28) 下関市長府図書
館 (下関文書館), 日本医史学雑誌, 51 (1) :
82 (2005)
 - 15) 小曾戸 洋 : 恩賜神農像と矢数道明先生, 斯文,
113 : 82~96 (2005)
 - 16) 小曾戸 洋 : 目で見る漢方史料館 (209) 半井
広明筆の三皇像, 漢方の臨床, 53 (1) : 2~4
(2006)